

発見！発掘！

郷土の歴史

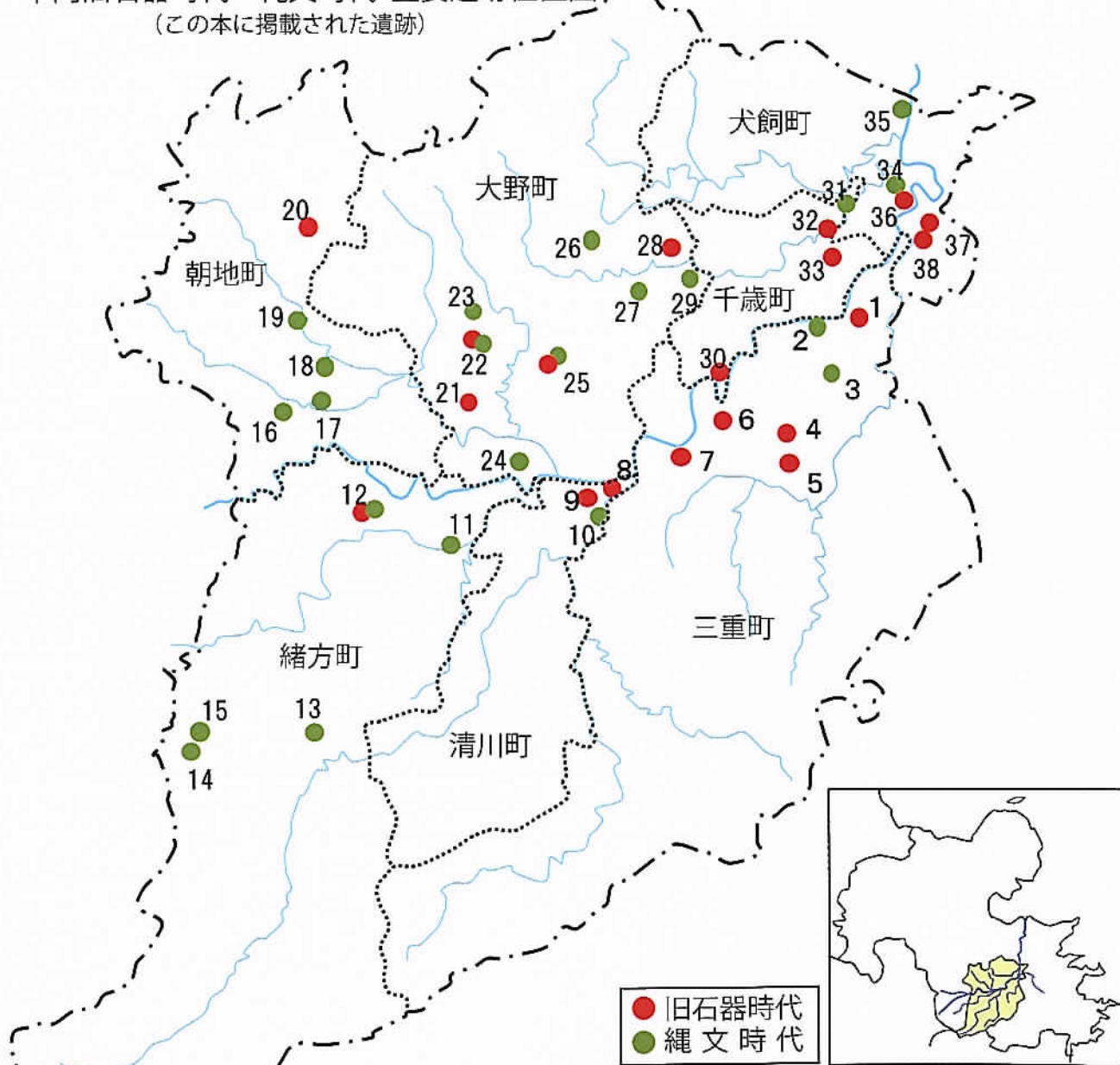
旧石器・縄文時代編



豊後大野市教育委員会

10万年前	3万年前	1万2千年前	2400年前	1700年前	1300年前	800年前	400年前			
原			始			古代	中世	近世	近代・現代	
旧石器時代 (先土器時代)			縄文時代			弥生時代		古墳時代		
						飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	
								室町時代	安土桃山時代	
前期	中期	後期	草創期	早期	前期	中期	後期	前期	中期	後期

市内旧石器時代・縄文時代 主要遺跡位置図



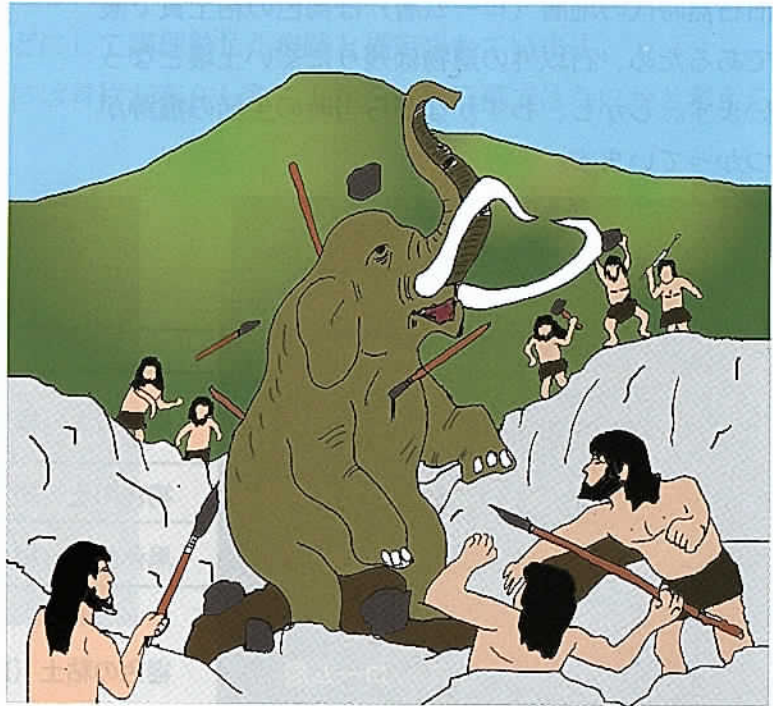
- 1 宮尾原遺跡 2 宇対瀬遺跡 3 惣田遺跡 4 牟礼越遺跡 5 茶屋久保遺跡 6 百枝遺跡 7 上下田遺跡 8 岩戸遺跡 9 柿ノ木原遺跡 10 柿木谷遺跡 11 緒方条里遺跡 12 千人塚遺跡 13 竜千寺遺跡 14 大石遺跡 15 中野宮前遺跡 16 草木洞穴遺跡 17 大恩寺稻荷遺跡 18 田村遺跡群 19 池在遺跡 20 鳥屋遺跡 21 郡山南遺跡 22 駒方遺跡群 23 川南原遺跡群 24 夏足原遺跡 25 宮地前遺跡 26 光昌寺遺跡 27 中道遺跡 28 小牧遺跡 29 岡遺跡 30 原田遺跡 31 高添遺跡群 32 大迫遺跡 33 鹿道原遺跡 34 鳥穴遺跡 35 下野遺跡 36 津留遺跡 37 松山遺跡 38 市ノ久保遺跡

旧石器時代

今から 200 万年前、地球上に人類が登場してから旧石器時代が始まります。現代より寒冷で火山活動も活発な環境の中、人々は石などを道具として使い始め、^{しゅりょう}狩猟や植物を採集して暮らしていました。

日本列島でも 10 万年以上前の遺跡が見つかっています。当時大陸と陸続きであったため、人々はゾウなどの大型動物を追って、移って来たと推定されています。

旧石器時代の遺跡の多くは、約 3 万年前から 1 万 2 千年前の後期旧石器時代に属する遺跡です。豊後大野市は大分県内でもその遺跡が集中していることが知られています。それは大野川流域の豊富な水源、食料となる動植物を育む豊かな自然環境、主要石材である良質な流紋岩が採取できるなど、生活の場として良好な環境であったからと考えられています。



化石動物の発見

当時は現在では見られない大型の動物が日本列島で生息していました。市内でもナウマンゾウやオオツノジカの骨が見つかっています。旧石器時代に絶滅してしまいましたが、当時の人々の狩猟の対象であったと考えられます。



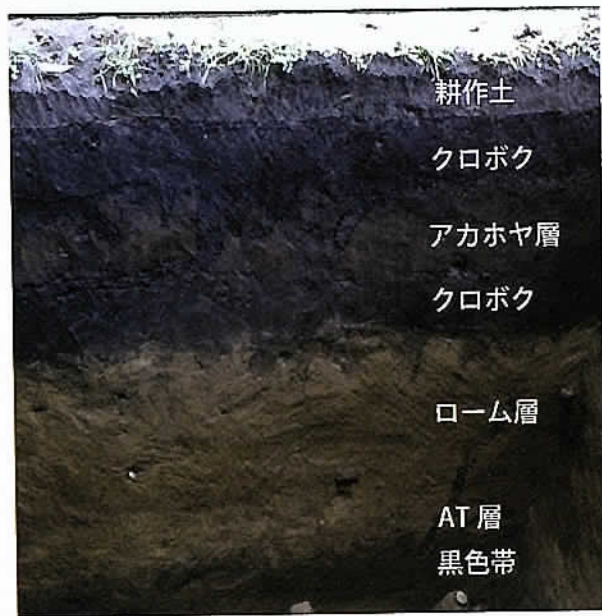
ナウマンゾウの発掘
(大野町代の原)



オオツノジカの下顎骨
(犬飼町下津尾)

●旧石器時代の遺跡

旧石器時代の地層（ローム層）は褐色の粘土質で酸性であるため、石以外の遺物は残りにくい土壌となっています。しかし、わずかながら当時の生活の痕跡が見つかっています。



岩戸遺跡の土層

黒色の土（縄文時代中期以降の層）

褐色の土（約 6300 年前 縄文時代前期の層）

黒色の土（縄文時代早期の層）

褐色の粘土（旧石器時代の層）

黄色の土（約 22000 年前に堆積した火山灰層）

黒色の粘土（旧石器時代の層）

おとしあな

陥穴（落とし穴）の遺構

小動物を捕獲するための穴と考えられています。AT層が上層に堆積しているため、2万2千年以上前の時期と思われます。



左：陥穴の平面 右：断面土層（郡山南遺跡）

れき ぐん 礫 群

しゅうせき

集石とも呼ばれ、石を意図的に集められているのが多くの遺跡で見つかっています。これは石を焼いて敷き、食べ物を蒸し焼きなどにして調理をした痕跡と推定されています。

また、岩戸遺跡で見つかった集石には骨片が存在したことから、集石墓ではないかと考えられています。



礫群 (百枝遺跡)



集石墓 (岩戸遺跡)

●石器の製作技法

せつ かく はく へん 石核石器と剥片石器

石核を素材として直接形を整えて石器とする石核石器、いわゆる礫器と呼ばれるものが最も原始的な石器の一つと推定されています。今のところ上下田遺跡から見つかった尖頭状の礫器がそれに相当する遺物の可能性があります。

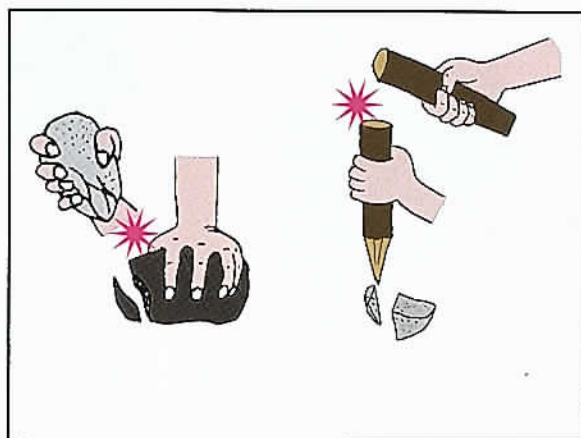
一方石核を規則的に割った破片（剥片）を作り出して石器の素材としたものが剥片石器です。特に石刃技法という同規格で多量の薄い剥片を作り出す技術がすでにこの時代で確立されています。



接合する剥片

打撃剥離と押圧剥離

石の割り方には鹿の角^{つの}や石などで直接叩いて割る直接打法や、角や木^{のみ}などを鑿のように当て、正確な打撃を加えられる間接打法の打撃による石器整形が行われたと考えられています。また、細かな調整や細石刃のような小さい石器製作には、先の尖った角などを押し付けて圧力で割っていく押圧剥離という技法を施したと推定されています。



打撃剥離 (左：直接打法 右：間接打法)

たてながはくへん よこながはくへん
縦長剥片と横長剥片

打撃の方向に対し作り出された剥片が縦に長いものを縦長剥片、横幅が広いものを横長剥片と呼ばれます。横長剥片の使い方には瀬戸内技法という製作技法があり、鳥が翼を広げたような形の翼状剥片^{よくじょう}を作り出す技法として知られています。



翼状の横長剥片（駒方池迫遺跡）

多様な石材

石器の材料となる石材は、地元で産出する流紋岩やチャートのほか、遠隔地より運ばれた黒曜石やサヌカイトなども使われています。これらの石材は鋭利な刃を作るのに適しているため好まれたようで、九州各地から交易により入手されていたとみられています。



流紋岩

祖母傾山系から大野川沿いの転礫としてみられます。旧石器時代の主要な石材です



チャート

佩楯山付近や佐伯方面で産出します。さまざまな色のものがあります。



黒曜石（腰岳産）

佐賀県伊万里市で産出する黒色でガラス質のような石材です。



安山岩

産地は特定されていませんが、大型の石器などに使われています。



サヌカイト

近畿から瀬戸内地域で広く使われており、九州では佐賀県などで産出します。



黒曜石（姫島産）

大分県姫島で産出する灰白色の石材で、特に縄文時代に多く使われています

●旧石器の種類

石器と剥片

旧石器時代の遺跡から見つかる遺物のほとんどは剥片です。原石である石核とともに、石器を作る際に生じた破片であるため、旧石器時代の遺跡の多くは石器製作の跡ともいえます。石器が遺物の割合としてそれほど多くないのは、道具として使用され、消耗してしまうためと考えられます。

れつ き 礫 器

先端部を刃とした石核石器で、手で握って叩いて使用したと考えられます。



尖頭状礫器（上下田遺跡）

ナイフ形石器

薄く鋭利な面を刃とし、基部などを刃潰し加工して細かい調整が施されています。

切ったり刺したりする使用方法が推定されており、終末期を除く後期旧石器時代全般にわたって見られる石器です。



ナイフ形石器（左：駒方津室迫遺跡 右：百枝遺跡）

はくへん せんとう き 剥片尖頭器

剥片の形を活かして基部を加工して作り出しており、大型のナイフ形石器とも言うべき石器です。槍として使用したと考えられます。



剥片尖頭器（左：津留遺跡 右：牟礼越遺跡）



角錐状石器（左：津留遺跡 右：駒方池迫遺跡）

かくすいじょう 角錐状石器

稜面が高く厚みのある石器です。特に断面が三角形のものが多いため三稜尖頭器とも呼ばれています。柄を取り付けて槍先とし、突き刺して使用したと考えられます。

さくき そうき 削器・搔器（スクレイパー）

調整剥離で刃を作り出しており、剥片の先端に刃があるものを搔器、側縁にあるものを削器と呼んでいます。皮を剥いだり骨などを削ることに使用したと考えられています。



削器（市ノ久保遺跡）



搔器（上下田遺跡）

せき ふ 石 斧

木を切り倒したり土掘具として使用したと考えられます。市ノ久保遺跡から出土した局部磨製石斧は、製作技術の特徴が東日本の影響と推定されています。



石斧（牟礼越遺跡）



局部磨製石斧（市ノ久保遺跡）

台形石器

剥片の基部に刃潰し調整を加え、台形に作り出した小型の石器で、剥片の鋭利な面を刃にしたと考えられています。



台形石器（千歳町採集）

石皿・磨石・敲石

大きめの石を台にして、食物を敲いたり磨りつぶしたりした調理具と考えられます。



敲石（百枝遺跡）



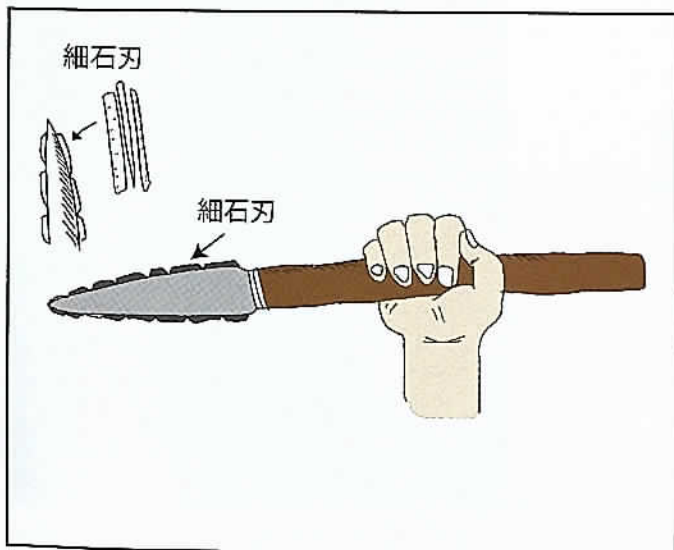
石皿・磨石（市ノ久保遺跡）

細石刃・細石核

終末期にみられる石器で、木の柄にいくつも装着して使用したと考えられています。細石刃を作り出す石核が円錐形や船底形をしているのが特徴です。



細石核・細石刃（上下田遺跡）



細石刃使用法



細石核（市ノ久保遺跡）

やりさき がたせん とう き
槍先形尖頭器

終末期にみられる石器で、両面を丁寧に加工するため断面が凸レンズ状になっています。両面を加工して先端が鋭く尖らせて、槍として使用したと考えられます。大迫遺跡のものは、縄文時代草創期にかけての有舌尖頭器とも推定されています。



槍先形尖頭器（上下田遺跡）



槍先形尖頭器（大迫遺跡）

せきぐう
こけし形石偶

緑泥片岩を加工して作られた石製品で、岩戸遺跡より見つかっています。人の頭部を表したのか、目や口を表現したと思われる窪みがあります。精神文化を表す遺物としては国内で希少なもので、祭祀などに用いられたと思われます。



こけし形石偶（岩戸遺跡）

写真提供・協力 東北大学大学院文学研究科

●市内の主な遺跡

いわど
岩戸遺跡

(国指定史跡 清川町臼尾)

1967年の調査で、ナイフ形石器・角錐状石器・スクレイパーなどをはじめとする石器群のほか、わが国で初めてのこけし型石偶が発見されたことで知られています。

1979年の2次調査では集石墓と考えられる遺構が見つかり、同年の3次調査でも良好な包含層や縄文時代の遺物も見つかっています。

この遺跡は日本の旧石器文化を考える上で非常に重要であることから、国の史跡指定を受けています。

『大分県史先史編Ⅰ』1983 大分県
『岩戸遺跡』1986 清川村教育委員会

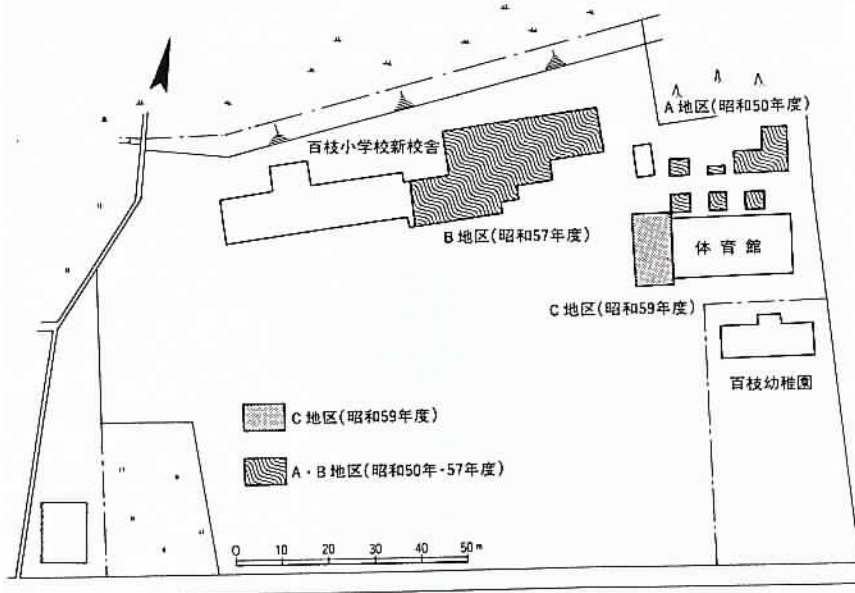


岩戸遺跡発掘調査写真

百枝遺跡（三重町西泉）

百枝小学校建設により
1974年・82年・84年の
3次で調査が行われました。
A T層下位をはじめ、旧石器
時代の文化層が3つ確認
され、ナイフ形石器や剥片
尖頭器、角錐状石器などが
多量に出土し、また集石遺
構も見つかっています。

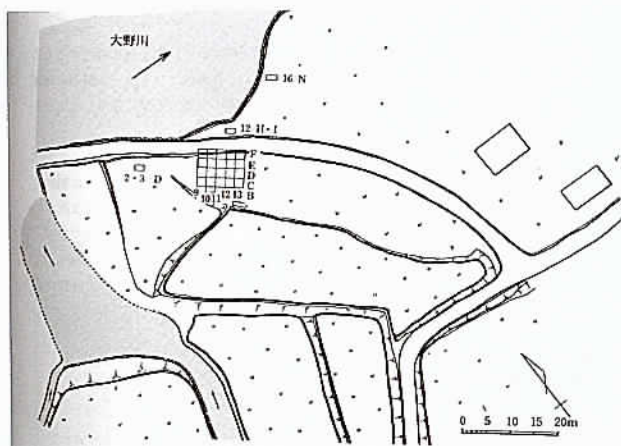
『大分県史先史編Ⅰ』1983 大分県
『百枝遺跡C地区』1985
三重町教育委員会



百枝遺跡調査写真

上下田遺跡（三重町川辺）

1979年・80年に調査が行われ、旧石器時代終末の細石器やスクレイパー主体の文化層が検出されています。また、凝灰岩風化粘土層上層からは前・中期旧石器時代に相当する可能性のある礫器が見つかります。『大分県上下田遺跡発掘調査報告書』1981 別府大学博物館、ほか



上下田遺跡調査位置図



上下田遺跡（写真提供・協力別府大学附属博物館）

みや お ぼる

宮尾原遺跡（三重町宮野）

2003年に道の駅建設に伴う調査で、細石刃・核などの石器群が確認されています。

（『三重地区遺跡群発掘調査概報Ⅶ』2004 三重町教育委員会）



宮尾原遺跡調査位置図



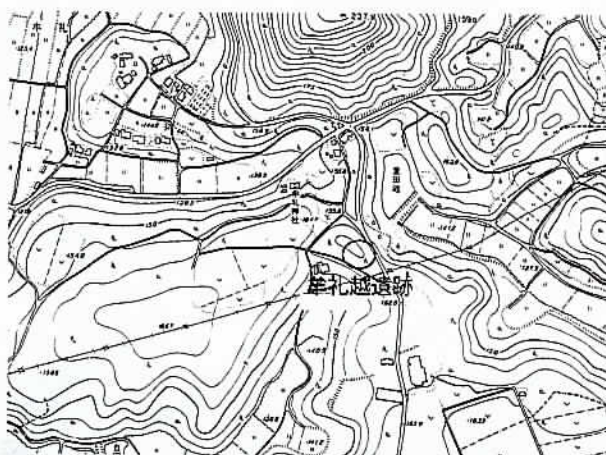
宮尾原遺跡調査写真

むれ ん こし

牟礼越遺跡（三重町百枝）

1993年より6次にわたって調査が行われ、旧石器時代から縄文時代早期にかけての文化層が確認されています。最古の文化層は始良丹沢火山灰（A T）層より下位のローム層で石斧などの石器群が見つかっており、後期旧石器の前半代に相当する時期と想定されています。

（『牟礼越遺跡』1995 別府大学附属博物館ほか）



牟礼越遺跡調査位置図



牟礼越遺跡調査写真



茶屋久保遺跡調査位置図



茶屋久保遺跡調査写真

ちや や く ぼ

茶屋久保遺跡（三重町赤嶺）

道路建設に伴う 2006 年の調査で、集石遺構 15 基及び角錐状石器を主体とする多数の石器が見つかっています。

かき の き ぼる

柿ノ木原遺跡（清川町白尾）

1987 年の調査で、ナイフ形石器・角錐状石器などの石器群が確認されています。

（『大分県内遺跡詳細分布調査概報 2』 1983 大分県教育委員会）

せん にんづか

千人塚遺跡（緒方町下自在）

1989 年に調査が行われ、中世墳墓等の遺跡として知られていますが、ナイフ形石器や角錐状石器などの石器も確認されています。（『緒方町誌総論編』 2001 緒方町）

と や

鳥屋遺跡（朝地町鳥田）

標高 600m の山地である鳥屋地区に所在し、尖頭器やスクレーパーなどの旧石器や縄文時代の遺物が見つかっています。（『朝地町史』 1967 朝地町）



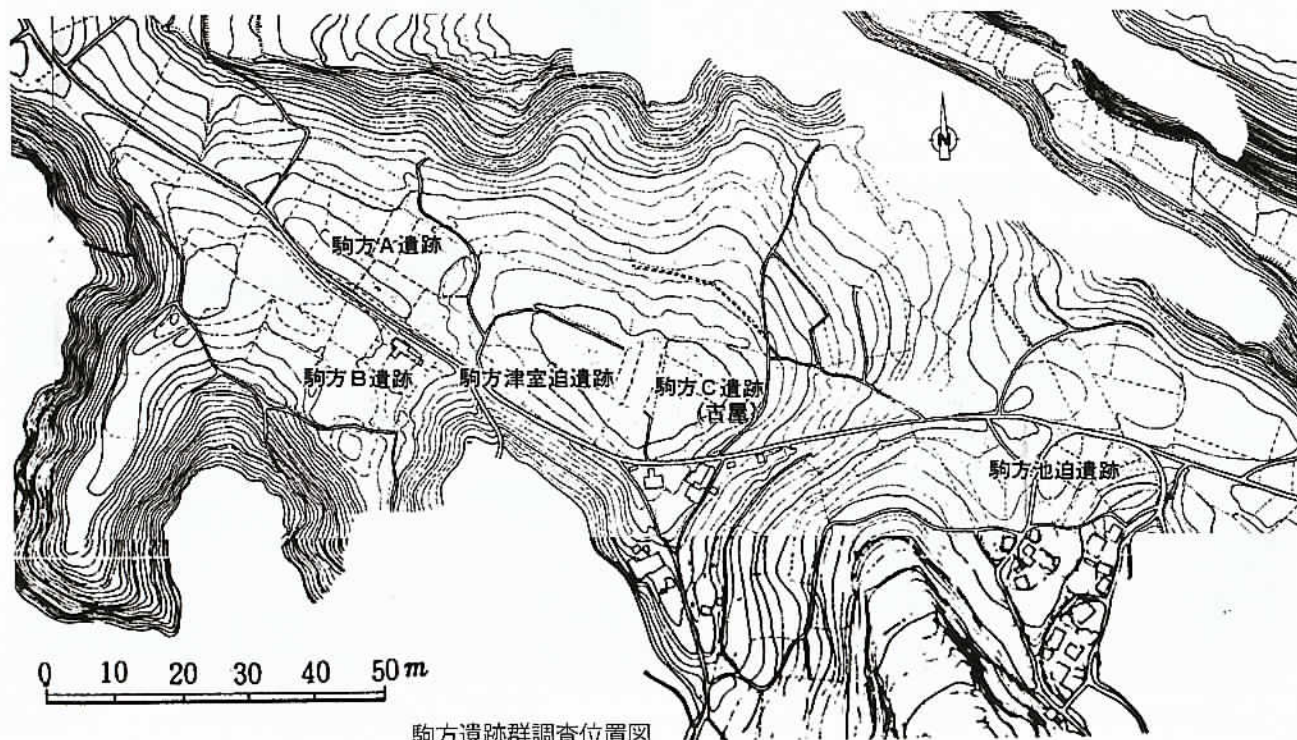
駒方池迫遺跡調査写真

こま がた

駒方遺跡群（大野町中原）

1960 年代より調査が行われ、旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が分布していることで知られています。駒方 C 遺跡や駒方古屋遺跡では A T 層下位よりナイフ形石器などが出土しています。駒方津室迫遺跡では基部に特徴のあるナイフ形石器やスクレーパーなどが出土し、駒方池迫遺跡では角錐状石器が主体となる石器群が出土しています。これらの遺跡は、同じ台地上で広範囲にわたって確認されています。

（『大野原の先史遺跡』 1984 大分県教育委員会、
『駒方古屋遺跡』 1985 別府大学附属博物館ほか）



駒方遺跡群調査位置図

こおりやまみなみ

郡山南遺跡（大野町郡山）

2000年の調査で近世墓地とともに若干の縄文時代や旧石器時代の遺物が見つっています。
また、旧石器時代の陥穴遺構2基も検出されており、この時期のものとしては珍しい発見です。

『郡山南遺跡』 2002

大分県大野土地改良事業事務所 大野町教育委員会



郡山南遺跡調査位置図



郡山南遺跡調査写真

みやじまえ

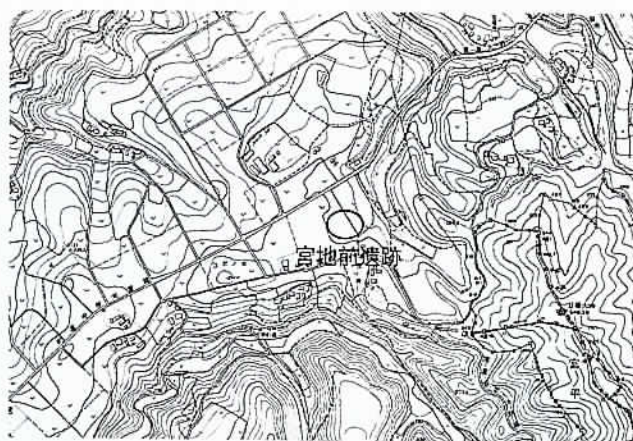
宮地前遺跡（大野町片島）

1973年・83年・84年・86年に調査が行われ、旧石器時代のほか縄文晩期の遺跡として知られています。遺物は細石器やスクレーパーなどが出土しています。

（『宮地前遺跡』1988 別府大学附属博物館）



宮地前遺跡調査写真（写真提供・協力 別府大学附属博物館）



宮地前遺跡調査位置図

こまき

小牧遺跡（大野町後田）

1978年に調査が行われ、細石器文化の良好な包含層が検出されています。細石刃や細石核のほか、スクレーパーや敲石や台石など多数の石器が出土しています。（『大分県大野町史』1980 大野町）

ろくどう ばる

鹿道原遺跡（千歳町柴山）

1989年・90年に調査が行われ、弥生時代の大集落として知られています。その調査では、ナイフ形石器や角錐状石器、スクレーパーなど多くの石器が見つかっており、かつては主要な旧石器時代の遺跡であったと思われます。（『鹿道原遺跡』2001 千歳村教育委員会）



鹿道原遺跡調査写真

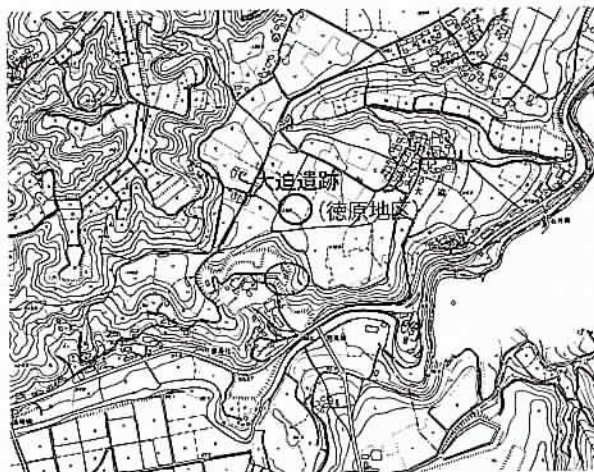
おおさこ

大迫遺跡（千歳町長峰）

1997年に土地改良事業に伴う調査が行われ、旧石器、弥生、中世の遺跡として知られています。旧石器時代としては、ナイフ形石器などの包含層のほか、有舌尖頭器と推定される尖頭器も出土しています。（『大迫遺跡徳原地区 原田第2遺跡原地区』1999 千歳村教育委員会）



大迫遺跡調査写真



大迫遺跡調査位置図

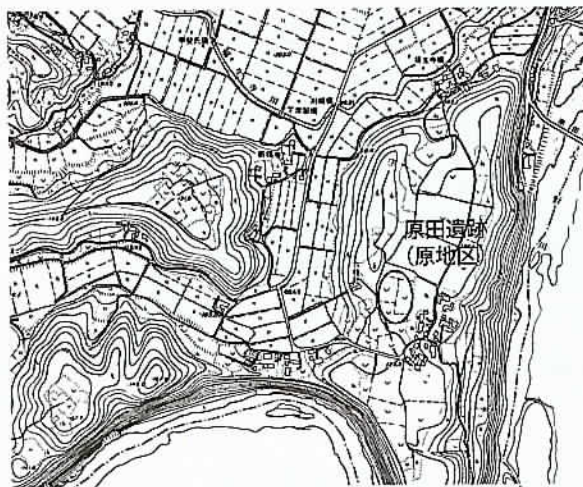
はらだ

原田遺跡（千歳町前田）

古くから調査が行われており、1998年の調査で旧石器時代の包含層よりナイフ形石器や角錐状石器が見つかっています。（『大迫遺跡徳原地区 原田第2遺跡原地区』1999 千歳村教育委員会）



原田遺跡調査写真



原田遺跡調査位置図

つる

津留遺跡（犬飼町田原）

1981年に調査が行われ、ナイフ形石器文化の典型的な遺跡で、剥片尖頭器をはじめ多量の遺物が

見つかっています。(津留遺跡発掘調査概報』1982 大分県教育委員会)

まつやま

松山遺跡 (犬飼町大寒)

1987年・1989年の2次にわたって調査が行われ、細石器中心の文化層とナイフ形石器などを主体とする2つの文化層が確認されています。(『松山遺跡』1990 別府大学附属博物館、ほか)

いちのくぼ

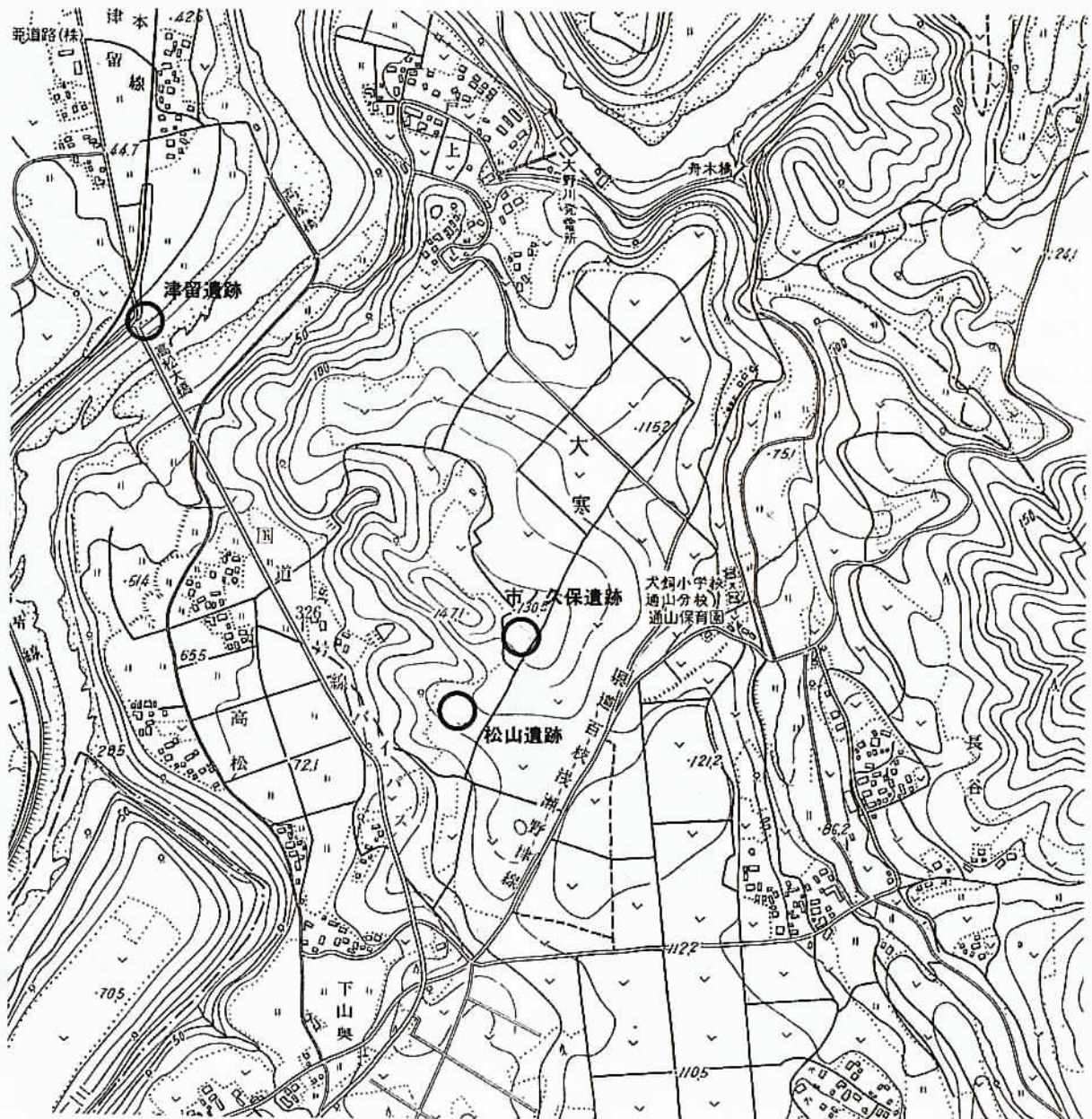
市ノ久保遺跡 (犬飼町大寒)

1988年に調査が行われ、旧石器時代終末期の遺跡で、細石刃や細石核・スクレーパー・局部磨製石斧のほか、食物調理用と考えられる石皿や磨石がセットで出土しています。



松山遺跡調査写真 (写真提供・協力別府大学付属博物館)

(『市ノ久保遺跡』大分県犬飼地区遺跡群発掘調査概報Ⅰ 1988 犬飼町教育委員会)



津留・松山・市ノ久保遺跡調査位置図

縄文時代

長く続いた旧石器時代も終わる頃、次第に温暖化が進んで動物・植物などの環境が大きく変わり、人々の生活もそれに適応するかのように変化がみられます。土器を使った食物調理や、弓矢を使った狩猟が始められ、さまざまな土器や石器が展開するようになります。竪穴住居も確認されるようになって定住化が進み、生活も安定し始めて呪術的な道具や装身具も作られるなど、精神生活の一端もうかがわれます。

およそ一万年も続く縄文時代は、^{そうそう き}草創期、^{そう き}早期、^{ぜん き}前期、^{ちゅう}中期、^き後期・^{ごう き}晩期といった時期区分に分けられており、豊後大野市内ではその中でも早期、後期、晩期の遺跡が多く確認されています。



●縄文時代の遺跡

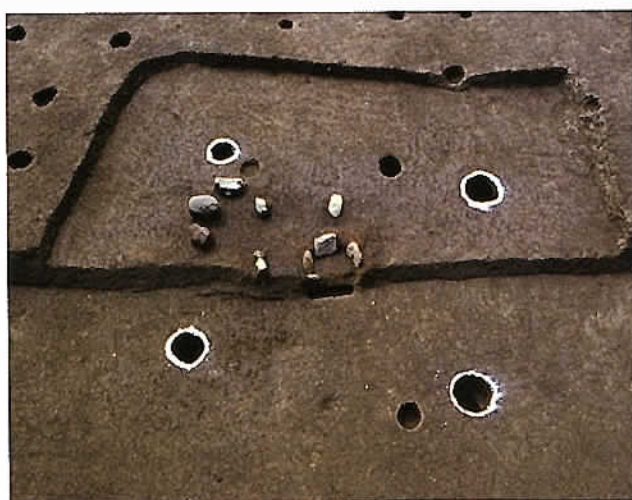
遺跡からみられる痕跡から推定して、縄文時代の人々は旧石器時代と同じく狩猟・採集中心の暮らしであったようです。しかし人々の生活の幅は広くなり、旧石器時代ではみられない様々な遺構や遺物が見つかっています。縄文時代の地層は、旧石器時代のローム層より上位の黒色土層に包含されています。

たてあな じゅうきょ あと 竪穴住居跡

縄文時代の住居跡は^{すみまる ぼうけい}円形や隅丸方形などの形で、柱の配列も不規則に作られていることが多くあります。後期以降多く見られるため、このころ定住化が進んだと思われます。



土器の出土状況（駒方遺跡）



方形の竪穴住居（田村谷遺跡）



円形の竪穴住居（下野遺跡）



礫群（大石遺跡）

どこうぼ 土壙墓

大恩寺稲荷遺跡や草木洞穴など、岩陰からは人骨が出土した遺跡が見つっています。これは土壙墓と呼ばれる死者を埋葬した跡と考えられ、手足を折り曲げた屈葬という状態で見つっています。中には石を抱かせている例もあります。



土壙墓の人骨（大恩寺稲荷遺跡）

かめかんぼ 甕棺墓

縄文晩期以降に出現する死者の埋葬法です。田村遺跡では大型の深鉢に浅鉢を被せています。人骨は見つっていませんが、甕棺の大きさから成人でなく小児を埋葬したのと考えられています。



甕棺（田村遺跡） 写真提供・協力 別府大学附属博物館

● 縄文時代の土器

縄文時代になると粘土をこねて作る「やきもの」として、土器が作られます。煮炊きや貯蔵に使われたと推定される深鉢型土器や、食器、時にはお供えの道具などとして使われたとされる浅鉢、液体を注ぎやすい口の付いた注口土器などがあります。また、時代によって文様や形が変化することもわかります。

早期



鉢（楕円押型文）（竜千寺遺跡）



鉢（山形押型文）（竜千寺遺跡）

前期



鉢（隆帯文）（千人塚遺跡）



鉢（刺突文）（千人塚遺跡）

中期



鉢（爪形文・隆起線文）（惣田遺跡）

後期



深鉢（田村遺跡）



深鉢（田村遺跡）



小型鉢（波状口縁）（駒方遺跡）



浅鉢（下野遺跡）



深鉢（倉園遺跡）



深鉢（駒方遺跡）



浅鉢（夏足原遺跡）



注口土器（夏足原遺跡）



深鉢（夏足原遺跡）

晩期



碗形土器（大石遺跡）



浅鉢（大石遺跡）



深鉢（大石遺跡）



鉢（大石遺跡）



甕（刻目突帯文）（駒方遺跡）

有孔円盤

土器片を加工して転用したもので、穴に棒を通して糸紡ぎに使ったと推定されています。



有孔円盤（大石遺跡）

縄文時代の石器

旧石器時代と同じく地元産の石材以外にも、黒曜石やサヌカイトなど遠隔地より産出する石材も多く見つかっています。

交易により手に入れることが可能な流通社会ができていたのでしょう。

打製石鏃

狩猟用の矢の先につけられたやじりと考えられます。鋭利な刃を作り出せる黒曜石やチャートが主に使われています。

石匙

匙という名称ですが、皮を剥いだり肉を切るなど獲物を解体する工具とも云われています。



打製石鏃（大石遺跡）



石匙（三重町採集）

だ せい せき ふ
打製石斧

扁平に打ち欠いて作られた石器で、刃付近は部分的に研磨したものもあります。現代の鍬^{くわ}のように土掘りに使われたと考えられています。



左：打製石斧、右：挟入打製石斧（大石遺跡）

いし ぼう ちょう が た いし が ま が た
石包丁形石器・石鎌形石器

弥生時代の石包丁に似た横刃形の石器で、基部に挟^きりの入^ふったものは石鎌形石器とも呼ばれます。雑穀類の収穫に使われたと考えられます。



石包丁形石器（大石遺跡）



石鎌形石器（大石遺跡）

十字形石器・円形石器

打製石斧と石材や作り方で共通していますが、何に使われたかはよくわかりません。

ま せい せき ふ
磨製石斧

断面は紡錘形で厚みがあり、刃部は砥石により研磨されています。木材を伐り出す斧と考えられます。



磨製石斧（三重町採集）



十字形石器（鹿道原遺跡）



円形石器（大石遺跡）

かんじょうせき ふ
環状石斧

棒などを差し込んで使った斧と考えられます。



環状石斧（緒方町採集）

石ノミ状石器

小型の石斧のような石器で、木材加工の道具と考えられます。



左：石ノミ状石器 右：砥石（大石遺跡）



と いし
砥石

磨製石器などを研磨するため使われたと考えられます。

たたきいし
石皿・敲石

ドングリなどの堅果類などを敲いて磨りつぶしたり使用したと思われます。

せきすい
石錘

扁平な河原石に一對の打欠いた礫石錘や切目石錘などの種類があります。漁撈のための網の錘と考えられます。



石皿・敲石（下野遺跡）



左：礫石錘、右：切目石錘（下野遺跡）



石錘の集中（光昌寺遺跡）

●いろいろな土製・石製品

当時の精神生活一端を示唆する遺物も見つかっています。

どぐう 土偶

土製の偶像で呪術や祭祀などに使われたと考えられています。後期以降の遺跡に多く、人形のような形や分銅形^{ぶんどう}などが知られています。破片で見つかることが多く、意図的に破碎したものと見られます。



土偶頭部（左：大石遺跡、中：駒方遺跡、右：宮地前遺跡）



土偶脚部（宮地前遺跡）



分銅形土偶（左：光昌寺遺跡、右：高添遺跡）



石剣・石刀・石棒

石製品の一つで実用の道具ではなく、土偶と同じく呪術や祭祀などに使われたと考えられています。



石剣（緒方町採集）



石刀・石棒（旧大野郡採集）

まがたま くだたま

勾玉・管玉

装身具として硬玉（ヒスイ）で作られています。首飾りなどのアクセサリーだったのでしょ。

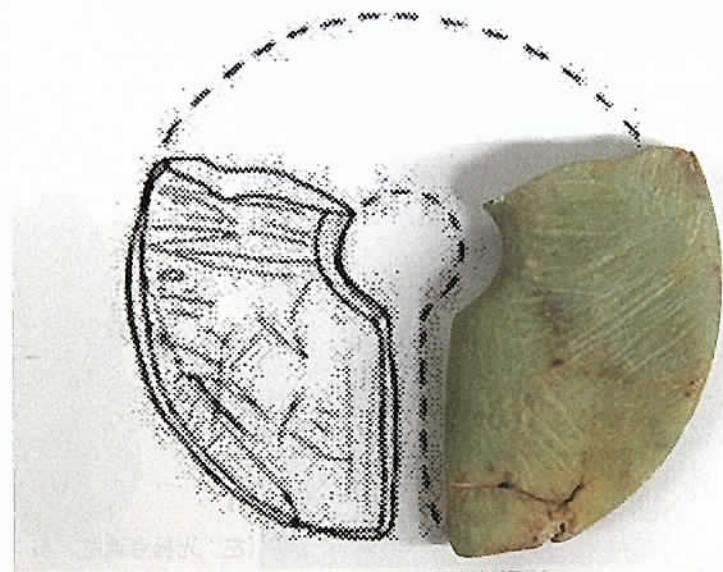


勾玉・管玉（大石遺跡）

けつじょうみかざり

玦状耳飾

縄文時代早期から前期にかけてみられる石製品で、切れ目の部分で耳を挟み込む装身具と推定されています。中国古代の玉器である玦に似ていることから名づけられています。



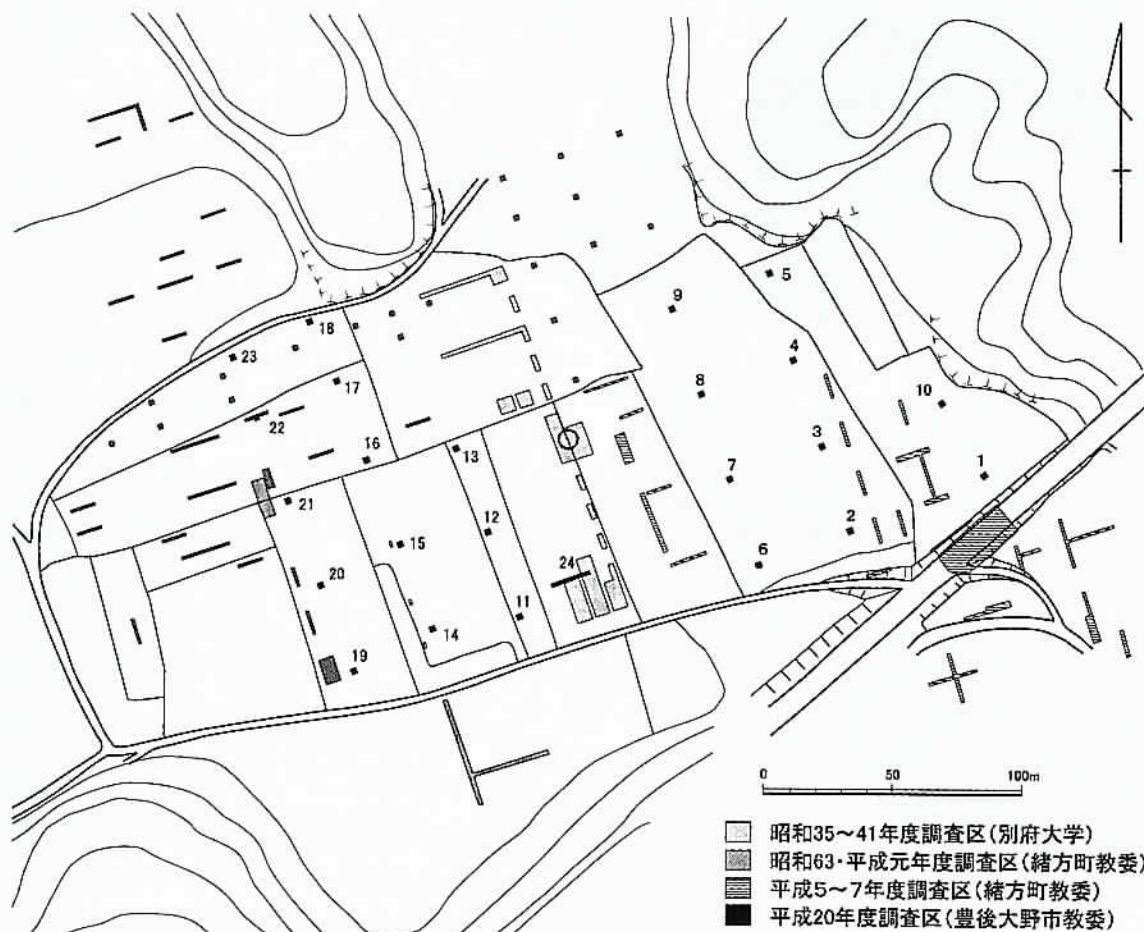
玦状耳飾（岡遺跡）

●市内の主な遺跡

大石遺跡（市指定史跡 緒方町大石）

縄文時代晩期を主体とする遺跡で、1961年以降10回にわたる調査で多量の土器のほか打製石斧や横刃形石斧などの石器・勾玉・土偶など豊富な遺物が発見されました。遺構も大型の円形竪穴や、平地式住居跡と推定される柱穴群などが検出され、集落の存在が想定されています。特に大量に出土した打製石斧や横刃形石器が農耕具とみなされ、水稻耕作が行われる以前の原始農業の存在が提唱されたことでも知られています。

（『大分県史先史編Ⅰ』1983 大分県・『緒方町誌総論編』2001 緒方町ほか）



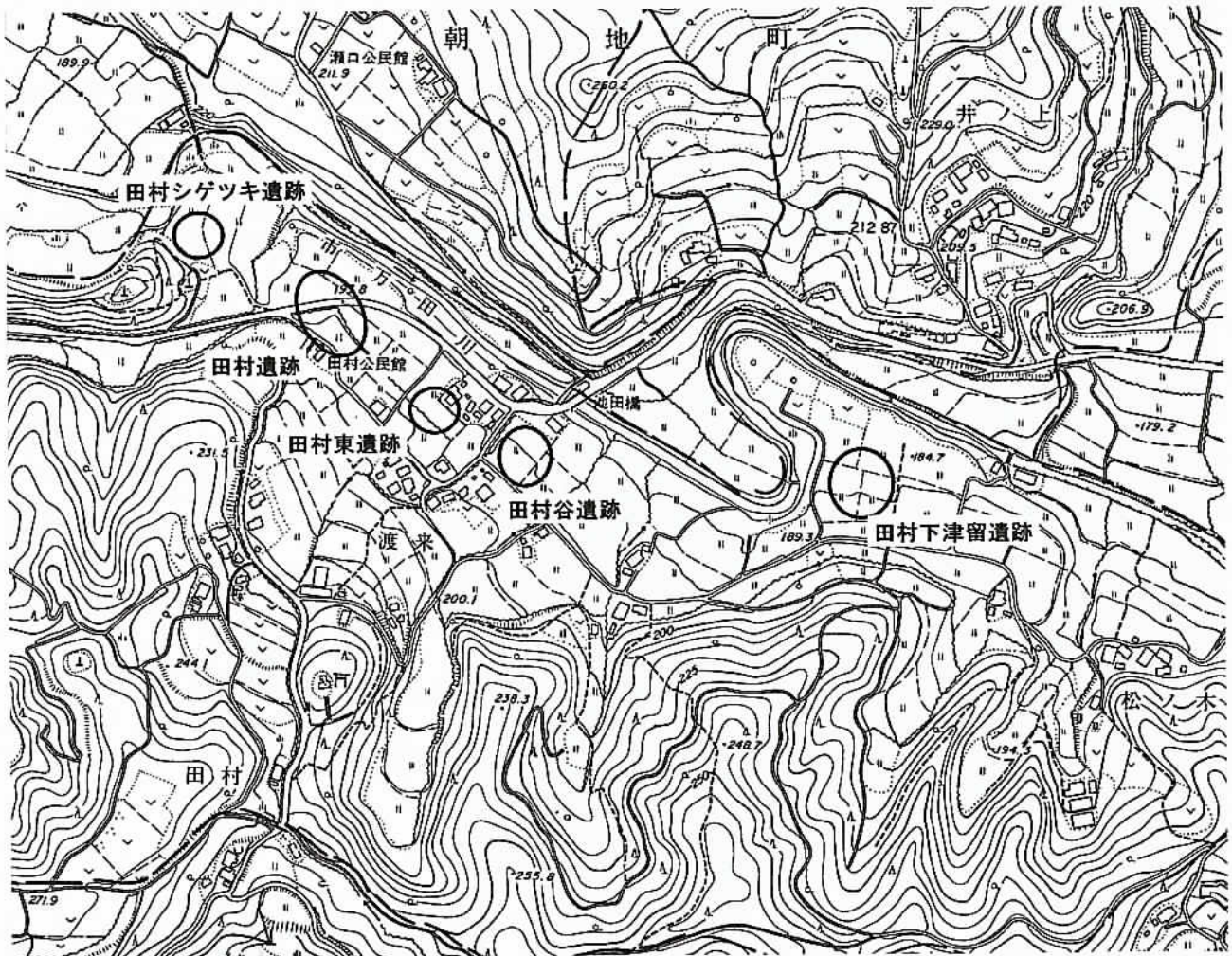
大石遺跡調査位置図



大石遺跡調査写真

田村遺跡群（市指定史跡 朝地町池田）

1957 年以降に調査が行われ、市万田川流域の広範囲に遺跡が存在しているのが確認されています。縄文晩期の^{かめかん}甕棺のほか、早期・後期の^{ほうがんそう}包含層が発見されており、田村谷遺跡では後期の住居跡が見つっています。（『大分県史先史編Ⅰ』1983 大分県・『朝地田村遺跡』1986 朝地町教育委員会）



田村遺跡群調査位置図



田村シゲツキ遺跡の礫群



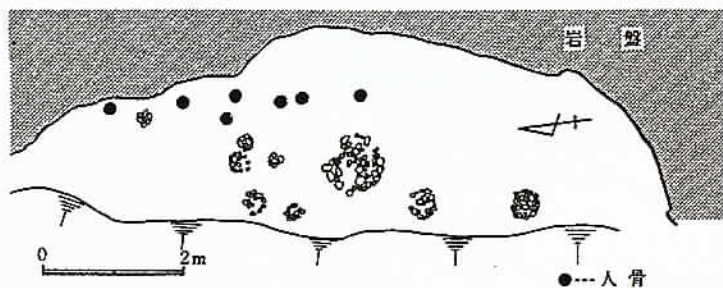
田村谷遺跡の竪穴住居跡

だい おん じ いなり

大恩寺稲荷遺跡（市指定史跡 朝地町板井迫）

平井川の浸食によりできた岩陰にある遺跡で、1963・1964年の調査で、早期末から前期にかけての土器・石器・骨格器などが出土しています。また、集石遺構のほか埋葬遺構から人骨が8体も発見されました。

（『大分県史先史編Ⅰ』1983 大分県・『朝地町史』1967 朝地町）



大恩寺稲荷洞穴人骨・集石出土状況



大恩寺稲荷遺跡調査写真

くさき どうけつ

草木洞穴（市指定史跡 朝地町坪泉）

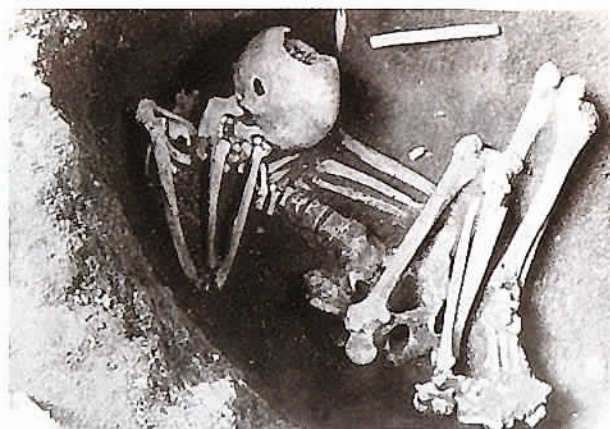
1963年・64年に調査された岩陰遺跡で、縄文後期の埋葬遺構に人骨2体分が発見されています。（『朝地町史』1967 朝地町）

そう だ

惣田遺跡（三重町菅生）

1981年より調査が行われた縄文時代から中世にかけての遺跡です。縄文時代では中期・後期の土器が見つかっており、特に中期のものは市内では数少ない時期の遺物です。

（『惣田遺跡』三重地区遺跡群発掘調査概要 1983 三重町教育委員会）



草木洞穴遺跡調査写真



惣田遺跡調査位置図



惣田遺跡調査写真

うたい ぜ

宇対瀬遺跡（三重町浅瀬）

古くから土器や石器が耕作中に見つかることで知られていましたが、1994年の調査では後期及び晩期を中心とする土器が見つかりました。

（『三重地区遺跡群発掘調査概報Ⅱ』
1997 三重町教育委員会）



宇対瀬遺跡調査位置図

いわど

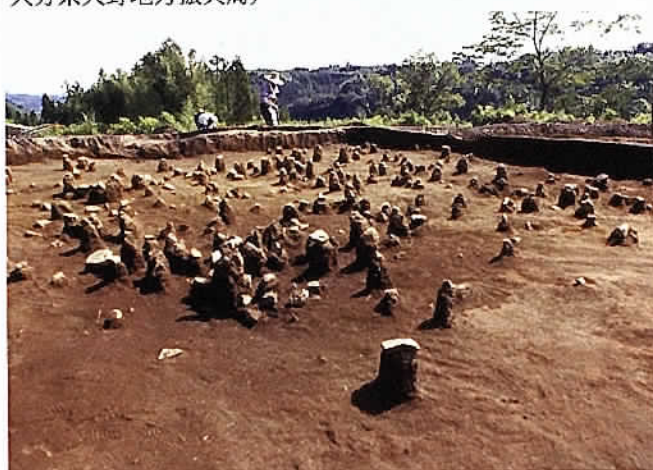
岩戸遺跡（清川町白尾）

旧石器時代の遺跡として有名です。1979年の3次調査では縄文時代早期から晩期の遺物も見つかっています。（『岩戸遺跡』1986 清川村教育委員会）

かきのきたに

柿木谷遺跡（清川町雨堤）

1992年の調査で早期を主体とする土器や石器が見つかり、遺構として集石遺構などが発見されています。（『柿木谷遺跡』1997 清川村教育委員会・大分県大野地方振興局）



柿木谷遺跡調査写真



柿木谷遺跡調査位置図

せん にんづか

千人塚遺跡（緒方町下自在）

1989年に行われた調査で、中世墳墓の遺跡として知られていますが、市内では数少ない縄文前期の土器群を含む包含層が発見されています。

（『千人塚遺跡』1999 緒方町教育委員会）

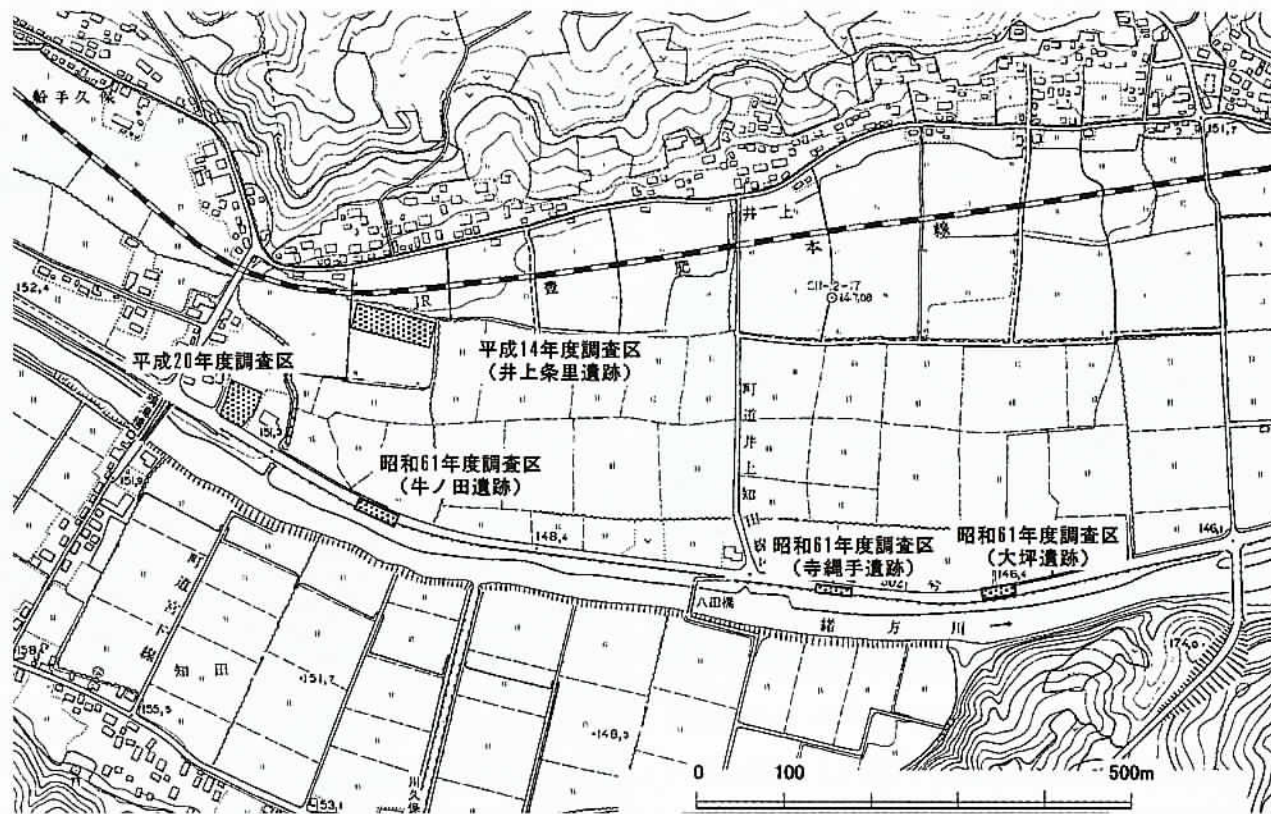


千人塚遺跡調査写真

お がたじょうり

緒方条里遺跡（緒方町井上）

緒方平野の遺跡で、1986年に牛ノ田、寺縄手、大坪遺跡で調査が行われています。縄文後期及び晩期の土器や石器が発見されています。（『緒方条里内遺跡』 1987 大分県教育委員会）



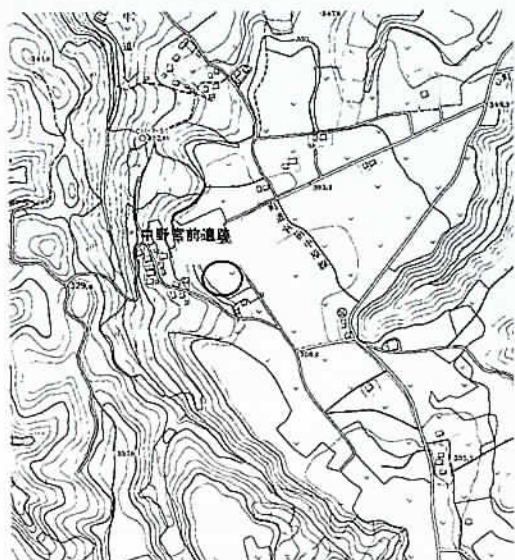
緒方条里遺跡調査位置図

なか の みやま

中野宮前遺跡（緒方町中野）

1989年に調査が行われ、早期の土器と集石遺構が検出されています。

（『緒方地区遺跡群発掘調査概報Ⅱ』1990 緒方町教育委員会）



中野宮前遺跡調査位置図



中野宮前遺跡調査写真

りゅうせんじ

竜千寺遺跡（緒方町上冬原）

古くから土器が拾われており、1997年に圃場整備工事中に早期を中心とする大量の土器が見つかります。

いけざい

池在遺跡（朝地町池田）

1984年に調査が行われ、後期・晩期の土器や石器が主体ですが、前期・中期の土器も見つかっています。（『田村遺跡・池在遺跡・古市遺跡・一万田遺跡』1994 朝地町教育委員会）



池在遺跡調査位置図

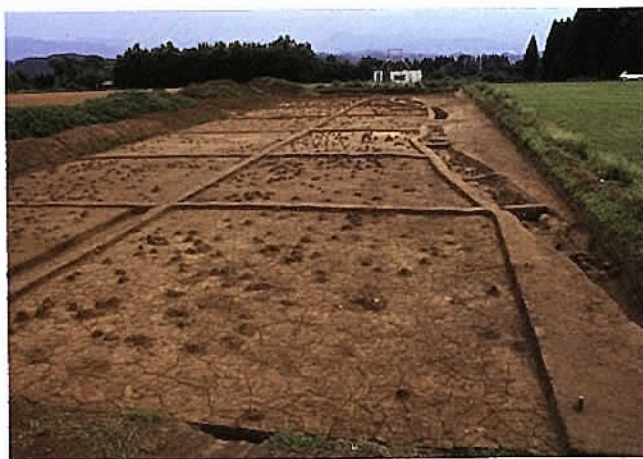


池在遺跡調査写真

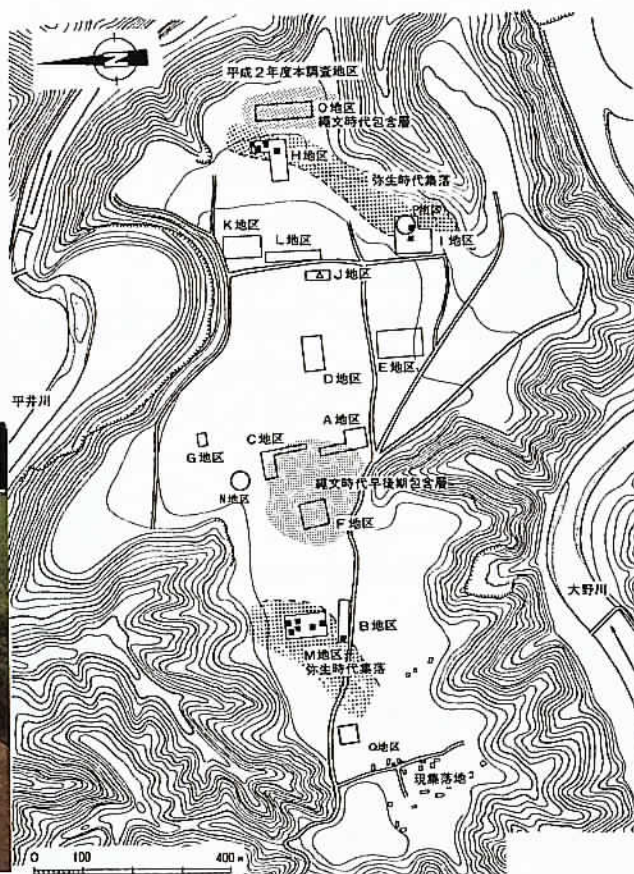
なたせ ぼる

夏足原遺跡（大野町夏足）

1975年以降土地改良に伴い計16箇所にも
のぼる調査が行われ、縄文時代早期・後期・晩
期・弥生時代の遺物・遺構が検出されていま
す。特にF地区より縄文後期の土器群や打製
石斧が、J地区より晩期の甕棺墓などが発見さ
れています。（『大野原の先史遺跡』1984 大分県教
育委員会、『駒方津室迫遺跡・夏足原遺跡（O地区）』1992
大野町教育委員会）



夏足原遺跡O地区調査写真



夏足原遺跡位置図

みやじまえ

宮地前遺跡（大野町片島）

1973年・83年・84年・86年に調査が行われ、旧石器のほか縄文晩期主体の土器や打製石斧・
横刃形石器などが出土しています。

こうしょうじ

光昌寺遺跡（大野町十時）

1990 年の調査で、弥生時代の集落とともに後期の包含層が検出されており、土器・石器が豊富に出土しています。（『大野地区遺跡群発掘調査概報Ⅰ』 1991 大野町教育委員会）



光昌寺遺跡調査位置図



光昌寺遺跡調査写真

こまがた

駒方遺跡群（大野町中原）

旧石器時代の遺跡としても知られており、1974 年に調査された駒方 C 遺跡では後期を主体とする遺物があり、特に土偶頭部などが知られています。1975 年調査の駒方 B 遺跡では晩期から弥生時代にかけての甕棺墓が検出されています。（『大野原の先史遺跡』 1984 大分県教育委員会）



駒方遺跡調査写真

おか

岡遺跡（大野町後田）

道路建設に伴い 2002 年度に神ノ木地区、2004 年度に下ノ原地区で調査が行われ、縄文時代後期を主体とする包含層や竪穴遺構が見つかりました。

『一般国道 57 号中九州横断道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)』 2007 大分県教育庁埋蔵文化財センター

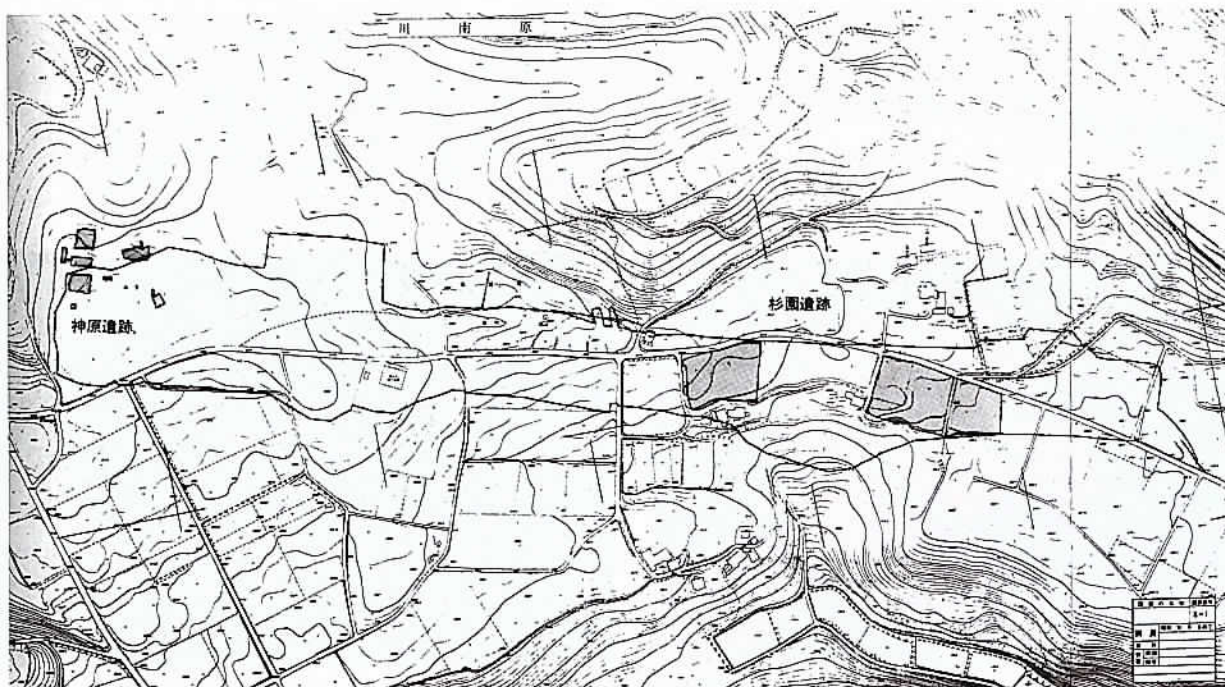


岡遺跡調査位置図

かわみなみばる

川南原遺跡群（大野町田代）

1990年の調査で^{かみばる}神原遺跡や^{すぎぞの}杉園遺跡で縄文時代後期を主とする遺物がみつき、特に杉園遺跡では竪穴住居跡6基などが発見されています。（『川南原遺跡群』 1991 大分県教育委員会）



川南原遺跡群調査位置図

なかみち

中道遺跡（大野町後田）

2008年の調査で弥生時代の集落のほか縄文後期を主とする住居跡及び土器石器などの遺物が見つかっています。



中道遺跡調査位置図



中道遺跡調査写真

たかぞえ

高添遺跡群（千歳町長峰）

1985年以降の調査で、旧石器から弥生時代の遺跡が発見されました。^{くらぞの}倉園遺跡では縄文時代後期、^{いしこうぼる}石五道原地区では早期・後期・晩期の土器などがみつかっています。

（『高添台地の遺跡』 1989 千歳村教育委員会）



とりあな

鳥穴遺跡 (犬飼町田原)

1974年に調査が行われ、早期の押型文や無文などの土器のほか石器を主とした遺物が発見されています。また、平地式住居及び炉跡と思われる柱穴群や集石遺構も発見され、早期の集落があったことが想定されています。(『大分県史先史編1』1983 大分県)

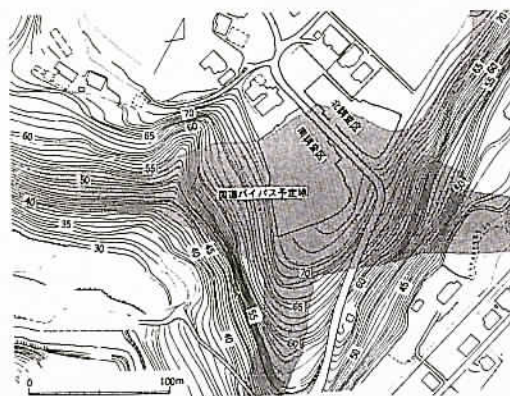


鳥穴遺跡調査位置図

しもの

下野遺跡 (犬飼町)

1993・94年に調査が行われ、後期及び晩期の土器や石器、竪穴住居跡などが検出されました。石器の中に石錘が多く含まれていることから、大野川で漁撈を行っていた人々の存在が考えられます。(『下野遺跡 上津尾遺跡』1997 犬飼町教育委員会)



下野遺跡調査位置図



下野遺跡調査写真



協力者機関一覧

大分県教育委員会
大分県立歴史博物館
大分市教育委員会
東北大学大学院
別府大学附属博物館

豊後大野市内埋蔵文化財ハンドブック① 発見！発掘！郷土の歴史（旧石器・縄文時代編）

発行日：平成22年3月31日
編集・発行：豊後大野市教育委員会
大分県豊後大野千歳町新殿 706-1
印刷：有限会社 民友印刷社